

国語「写真絵本をあじわいつくそう！ ～電子書籍 Yomokka！（ポプラ社）～」

小2年2組

実践者 曾根朋之

ア. 活動の構想

(ア) 子どもの実態

国語科の読むことの活動では、文学的な文章、説明的な文章ともに様々な見方で読んだり、友達の考えを共有したりして、多面的に文章を楽しんできた。

例えば、文学的文章では『スイミー』（光村図書2年上）を扱い、「『スイミー』のみりよくとは？」という活動を行った。まず、初読で出し合った魅力を「出来事」、「登場人物」、「言葉の使い方」、「絵」で分類し観点を共有した。その後、その観点ごとに読んで魅力だと思ったことを共有することを繰り返し、多くの見方で『スイミー』を読むことで味わい尽くす活動を行った。

説明的文章では、どんなことが書かれているかという内容面だけを扱うのではなく、どのように書かれているかという形式面も扱ってきた。「オノマトペ」「数字」「問いかけ」「例え」「順序を表す言葉」のようにその説明文で工夫されている言葉に気付きながら読むことができている。また、写真や絵にも着目してきた。1年生の『くちばし』（光村図書1年上）であれば、拡大した絵の良さに気付き、自分たちのクイズ作りに生かしたり、『うみのかくれんぼ』（光村図書1年上）であれば、海の生き物たちがだんだんと隠れていく3つの写真のを並べる良さに気づいたりしていた。2年生では、『たんぼぼのちえ』（光村図書2年上）と『たんぼぼ』（東京書籍2年上）の読み比べをする中で、写真と絵の違いやそれぞれの良さに気づいている。

このように、「さまざまな見方で教材を見てたくさんの魅力を感じる」という多面的な見方をすることに重点を置いてきた。また、全体で考えを共有する場も多く設定してきたこともあり、友達の考えに共感したり、ちゃんと理解できなかったものには質問して納得したりすることには慣れている子どもたちである。

今回扱う「写真絵本」については、電子書籍 Yomokka！（ポプラ社）や図書室で読んでいる姿をよく見かける。多くの子は「爬虫類が好きだからヘビの本を読んでいる。」といった内容的な面白さや、「この写真がきれいだからお気に入り！」といった写真自体を楽しんでいる傾向がある。もちろん、このような楽しみ方も写真絵本の味わい方の一つであるが、これまでの読むことの学びと同様に、クラスで魅力の共有をしたり、複数作品を読み比べたりすることを通して、写真絵本の多くの魅力に気付けるような活動にしていきたい。

また、説明的文章で絵や写真の良さに気づいたことをきっかけにして、自分が書き手、話し手となったときにも写真や絵を使って説明しようとする子どもも多い。例えば、クラスの活動の一つである「けんきゅうタイム」で取り組んでいることについて、クラスに研究発表をする際には、写真を効果的に使って発表しようとする姿が見られる。しかし、適切な写真や図を効果的に使っているとは言いづらく、テーマにあった写真や絵を「とりあえず使っている」という状況である。そのため、目的や説明内容を見返し、効果的な図表を選択できるようになることも必要だと感じている。

(イ) 本実践のねらい

a. 「写真絵本」の教材観

写真絵本は、詳しい説明書きがあったり写真の使われ方が工夫されたりしているため説明的文章の要素が強い。しかし、作者である写真家によって得意なジャンルや撮るシーン、さらに写真絵本になったときに使われる写真にも特徴があり、知識を得たりすることに重点の置かれた図鑑や説明文とは違い、作り手の思いを感じられるものが多い。写真の見方や使い方を学び、写真や文章から感じる作り手の思いを交流することに価値のある教材である。

b. 本実践のねらいと解説

本実践で掲げる大きなねらいは以下である。

複数の写真絵本を様々な見方で読み比べることを通して、多くの写真絵本の魅力に気付く。

このねらいに近づくために第一次、第二次では **(a) 「目的や説明内容に合わせた効果的な写真を判断することを通して、写真の見方を知ること。」**をねらいとする。まずは、読み手として気に入った写真絵本とそのページの写真や言葉を考え、クラスで共有する。共有したことで見える多くの人が良いと感じる写真の共通点を「効果的な写真」の条件として位置付ける。その条件と照らし合わせながら、再度写真絵本を見ることでねらいに近づけていく。

このねらいは、現行の学習指導要領の低学年の読むことの領域において当てはまる箇所はない。写真を含めた「図表」という言葉が書かれるのは、高学年の読むことの領域では、「ウ目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。」からである。しかし、子どもの実態や現代社会において、低学年段階から「図表」の見方を養い活用させていくべきではないかと考えている。(ア) 子どもの実態で述べているように、自分が伝えたいことを伝えるために図表を用いて説明しようとする姿が多く見られている。また、現代社会において情報は多様化し、様々な図表を目にする機会は増え、低学年にとってもかなり身近な存在であり、特にスマートフォンの普及により写真との距離は近くなっている。このような状況を鑑みると、扱う図表や精査解釈するレベルは実態に応じて調整すべきではあるが、「文章と図表を結び付ける」ことを通して、文章を精査解釈することは低学年においても必要であると考えられる。その精査解釈のレベルが上がれば、自ずと自身が説明するときを使う図表も相手を意識するようになると考える。

第三次では、 **(b) 「皆越ようせい作品で扱われている生き物の見方がどのように変わったのかを作者の言葉、写真の使い方、写真の撮り方の特徴に着目しながら読むこと。」**をねらいとする。「a. 「写真絵本」の教材観」でも述べたように、作り手である写真家によって、作品への思いや得意なジャンル、撮るシーン、さらに写真絵本になったときに使われる写真にも特徴がある。今回扱う皆越ようせい作品は、以下のような内容的特徴がある。

- ・ダンゴムシやミミズといった土壌生物を被写体としている。
- ・産卵、子育て、脱皮、食事、死などその生き物の一生や生活を扱っている。
- ・飼育して撮影するのではなく、実際の場に赴き撮影している。

このような内容的な特徴に重ねて、問いかけや比喻などの言葉の工夫、比較できるような写真の使い方の工夫、一瞬を逃さず撮るような写真の工夫を使うことで、引き立たせている。皆越ようせい作品を読むと、扱われている生き物の見方がどんな形であれ変わっていくことが考えられる。なぜ、そのように変わったのかという根拠を作者の言葉、写真の使い方、写真の撮り方に着目しながら読むことで、作者ならではの魅力に気づき、第二次まででは感じていなかった写真絵本の魅力に気づかせていきたい。

このようなねらいを達成するためには、図表が多く使われている教材であること、一般化を図るために複数作品を読み比べることが必要である。したがって、本実践で扱う電子書籍 Yomokka（ポプラ社）を使えば簡単に複数作品を読み比べることができるため、適切な教材であると言えることができる。

イ. 活動の計画（全 1 1 時間）

（ア）活動計画

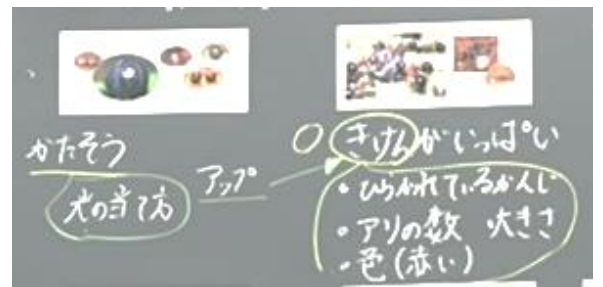
次	時	○学習活動 ・予想されるこどもの反応	◇留意点 ◆評価
1	1	<p>○『子どもをまもるどうぶつ』（東京書籍 1 下）のオオアリの文章だけを読み、どのような写真が入るか予想する。</p> <p>○オオアリの写真を見て、その写真の良いところや、もっとこうしたほうがよいところを考え、出し合う。</p> <p>オオアリについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少し見づらいけど背中に載せて子供を運んでいる写真だから良い。 ・体の模様とつながって見せて子供を目立たなくさせるからいい。 	<p>◇『たんぽぽ』と『たんぽぽのちえ』の比較について、資料を見返しながら想起させる。</p> <p>◇文章とつなげて考えられていることを価値づける。</p> <p>◆写真と文章を関連させながら、内容の大体を捉えている。（ノートへの記述）</p>
	2	<p>○『子どもをまもるどうぶつ』のコチドリの文章だけを読み、どのような写真が入るか予想する。</p> <p>○写真を見て、その写真の良いところや、もっとこうしたほうがよいところを考え、出し合う。</p> <p>コチドリについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽をバサバサと羽ばたかせているから良い。 ・でも、早足とかよろよろと歩いているのとかは伝わりづらい？ ・写真だと無理があるような気がする。 <p>○文章に写真や絵をつけるならどのようなものにする とよいか活動を踏まえて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章に合わせた写真や絵にしないといけない。 ・写真をうまく使っている文章を Yomokka! の写真絵本から探してみたい。 	<p>◆写真と文章を関連させながら、内容の大体を捉えている。（ノートへの記述）</p> <p>◇動いているものの説明をする写真の難しさを共通理解する。</p>

2	3	<p>○30冊の写真絵本からお気に入りの写真絵本とその中のお気に入りの写真を選び、metamoji classroomでワークシートにまとめる。</p> <p>○まとめたワークシートを metamoji classroom で共有し、選んでいる写真の共通点を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件①「言葉だけではわからないところをわかりやすくしている」写真 ・条件②「文にぴったりな写真」 ・条件③「見た人がすごい！と思う写真」 <p>○今後の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この条件がまだよくわからないから、1冊何か使ってみるまで考えたい。 	<p>◇まとめ方については事前に指導し、家庭学習期間にGIGA 端末を持ち帰り、自由に読書できるようにしておく。</p> <p>◇この条件を共通理解し、写真絵本における良い写真のポイントとしておさえない。</p>
	4	<p>○『ダンゴムシみつけたよ』の文だけを読んで写真が必要な言葉を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示語（「ここ」「これ」） ・オノマトペ（「バリバリ」「がりがり」） ・たとえ（「だんごのように」） ・強調したい様子（「きけん」「暗いところがすき」） ・あまり見たことのない様子（「からをぬぐ」「だんだん大きくなっていく」） ・温かい様子（「春になったら」） ・色（「白く」「黒くて」「茶色くて」「黄色くて」） <p>5 ○写真を見て、3つの条件に合う良い写真を考え、</p> <p>6 交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バリバリ」「がりがり」「むしゃむしゃ」と食べているところは、この写真だと伝わらない。 ・アリがむらがりたり、クモにおそわれていたり「きけん」もよく伝わるね。 ・白くなったところもいいよね。こういう白なんだというのがわかる。 ・オスとメスのちがいがよくわかるね。 ・たまごがおなかの中でかえるのもよくわかる。 ・「動き出した」はなかなか伝わらないかな…。 ・「からをぬいでいるところ」もアップで良い写真。 ・P30は脱ぐ様子を3枚に分けているのがいい！ 	<p>◇言葉だけでは伝わらないことを考えることをとおして、前時に確認した条件①の「言葉だけではわからないところ」を読み手の立場に立って考えられるようにする。</p> <p>◇3つの条件のどれに照らし合わせて考えているのかを確認しながら進める。</p> <p>◆目的や説明内容に合わせて効果的な写真を判断している。（ノートへの記述・発言・振り返り）</p>

	7	<p>○ダンゴムシについて描かれている他作品を読み聞かせを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や扱っている内容が違う。 ・伝えたい相手や目的, 本の種類によって変わるんだ。 ・作者によって違うんだね。 ・作者に注目して読んでみたことがないな。 ・同じ作者の作品を読み比べてもおもしろいかも知らないね! 	<p>◇作者によって扱う内容が異なることに気付かせ、次時の作者に注目する活動へとつなげる。</p>
3	8 9	<p>○皆越ようせいさんの6作品を読んで、似ているところを出し合う。</p> <p>絵本に出てくる生き物について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ち悪がられて嫌われているものが多い。 ・あまり知らない生き物 <p>扱っている場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の成長や, 一生, 生活について書かれている。 <p>言葉の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いかけや, 例えなどわかりやすく読みたくなる言葉が多い。 <p>写真の使い方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比べる写真や, だんだん動く写真がある。 <p>写真の撮り方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップしてわかりやすくしている。 ・背景がそのまま使われている。 	<p>◇言葉のよさ, 写真のよさをまとめながら板書する。</p> <p>◆6作品を読み比べ共通点を理解している。(ノートへの記述)</p>
	10	<p>○6つの皆越作品から出てくる生き物についての見方がどのように変わったのか, どの絵本のどこから変わったのかを考える。</p>	<p>◆皆越ようせい作品で扱われている生き物の見方がどのように変わったのかを作者の言葉, 写真の使い方, 写真の撮り方の特徴に着目しながら読んでいる。(ノートへの記述)</p>
	11 本 時	<p>○前時で考えたことを共有する。</p> <p>詳細は本時案に記載。</p>	<p>◆6つの皆越作品を読んで感じたことや分かったことを互いの思いを分かち合ったり, 感じ方や考え方を認め合ったりすることができる。(発言・振り返り)</p>
	12	<p>○皆越作品を読み、考えを共有したことで出てくる生き物の見方がどのように変わったのかを図にしながら振り返る。</p> <p>○他の写真絵本を Yomokka! や図書室の本で読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この写真, わかりやすいし, 文にぴったりでいいね。 ・すごいと思う写真もいっぱい。 ・この作者は人と何かを書いた絵本を作っているよ。 	<p>◆写真絵本において, 効果的な写真や言葉を考え, 写真の見方を広げている。(発言)(振り返りの記述)</p>

5・6時間目 『ダンゴムシみつけたよ』を読み、よい写真の条件に合うものを考える。

赤ちゃんの生まれる様子、赤ちゃんの様子、脱皮する様子、オスとメスの比較、光、危険な様子、移すもの、うつさないものなど、3つの条件に合わせて考え発言している様子が見られた。特に印象的だったのは、ダンゴムシがアリに襲われているページについて語られた時間である。「いつもきけんがいっぱい」という言葉では伝わりづらいことについて、アリの数や色、写真の大きさなど言葉だけでは伝わらない写真の効果を考えることができていた。



7時間目 ダンゴムシについて描かれている他作品を読み聞かせを聞く。

ダンゴムシが描かれた他作品を読んで、違いを知ること、『ダンゴムシみつけたよ』も作者である皆越ようせいの特徴を考える動機付けする時間として位置付けた。

他作品として読み聞かせたのは以下の三作品である。

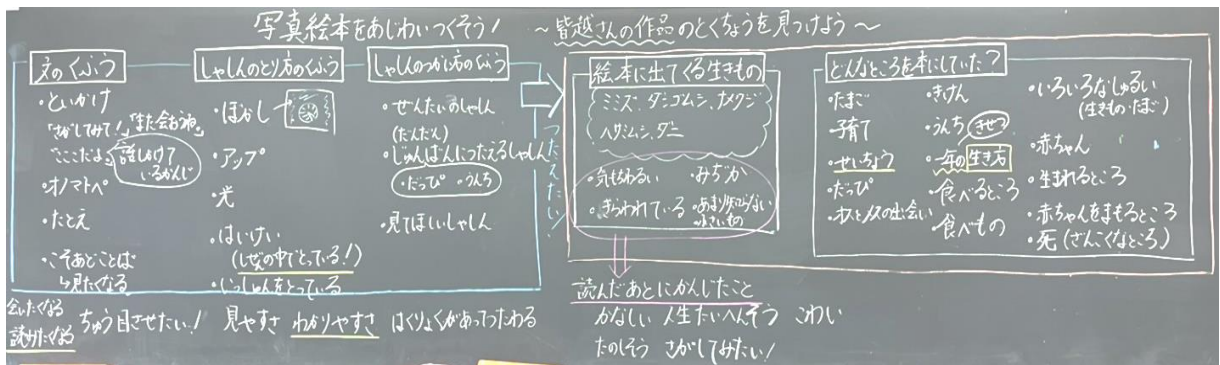
『育てて、調べる日本の生き物ずかん 4 ダンゴムシ』（集英社）2004

『やあ！出会えたね ダンゴムシ』（アリス館）文・写真 今森光彦 2002

『月刊 かがくのとも ぼく、だんごむし』得田之久 文 たかはしきよし絵 2003

8・9時間目 皆越作品を6作品読んで共通点を知る。

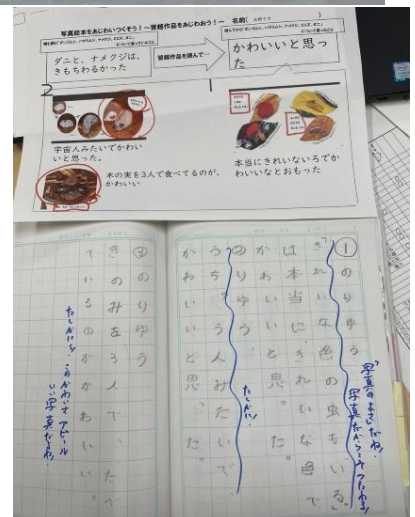
6作品を読んで、絵本に出てくる生き物、描かれているところ、文の工夫、写真の撮り方の工夫、写真の使い方の工夫にカテゴリズしながら板書したのが以下である。



10時間目 考えをもつ。

皆越作品を読み返しながら、生き物への自分の見方がどのように変わったのか、根拠と理由を書きながら自分の考えを書く時間とした。

Metamoji Classroom を使って、根拠となる写真や言葉に着目し、なぜその根拠からそう感じたのか理由をノートやプリントにメモをした。



(ウ) 本時の計画 (11時間目/全12時間)

a. 本時のめあて

- ・ 6つの皆越作品を読んで感じたことや分かったことを互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしている。
- ・ 写真絵本において、効果的な写真や言葉を考え、写真の見方を広げている。

b. 本時の展開

○学習活動・児童の反応	◎指導上の留意点 ☆評価【 】 評価方法 () ※資料
<p>○前時までの活動から、本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までは皆越さんの特徴を知った上で、出てくる生き物たちの見方がどう変わったかを考えたね。 ・ 6作品から根拠と理由を考えた。 ・ 今日はそれをみんなで話し合う時間だね。 	<p>◎単元の目標でもある写真絵本を味わい尽くすために、自分の感じたことだけでなく、友達の考えも知ることでより味わうことを確認する。</p>
<p>皆越作品を読んで、出てくる生き物たちをどのように感じるようになったのかを共有しよう。</p>	
<p>○皆越さんが本にしているところで印象に残っているところ、そこで使われている説明の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんなに種類がいるとは思わなかった。 ・ 卵や赤ちゃんがこんな感じだとは知らなかった。 ・ こんな生まれ方だということも知らなかった。 ・ こんなに危険な世界だとは知らなかった。 ・ 死んじゃったらこうなることは知らなかった。 ・ 子育てがこんなに大変だとは知らなかった。 ・ こうやって脱皮するのは知らなかった。 ・ オスとメスの違いを初めて知った。 <p>○印象に残っていることに対して、どう思っているかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卵は赤ちゃんはかわいいと思った。うまくとれているよね。 ・ でも、ハサミムシが子供に食べられちゃうところを見て、かわいそうだと思った。 ・ 確かに、他にも危険なところがたくさんあって、これじゃあ大変すぎるよ。絶対なりたくない。 ・ でも、楽しそうなどころもあるんじゃない。 ・ 楽しいかはわからないけど、ハサミムシのお母さんは子供のために頑張っているんだから、かわいそうとは違うよ。 ・ みんな自然の中で頑張っているんだと思うよ。そういうことを感じる場所が多い気がする。 ・ 頑張っていきながら、楽しみもあるんじゃないかな。 <p>◎友達の感じ方を聞いて新しく感じたこと、そう感じた理由を振り返る。</p>	<p>◎読んでわかったことや知ったことを前時で「思ったこと」に入れている子供を指名し、焦点化する。</p> <p>◎前時の板書をスクリーンに提示し、皆越作品で扱われていたことを確認する。 ※前前時の板書</p> <p>◎印象に残っているところをいくつか出し合う中で、そこで使われている説明の工夫も問い返しながらか確認していく。</p> <p>◎印象に残っているところを共有したあと、そこに対してどう感じているのか自分と友達の考えの違いを考えながら話し合えるよう対立軸を考えながら話し合う。</p> <p>☆6つの皆越作品を読んで感じたことや分かったことを互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりすることができる。(発言)(振り返りの記述)</p> <p>☆写真絵本において、効果的な写真や言葉を考え、写真の見方を広げている。(発言)(振り返りの記述)</p>

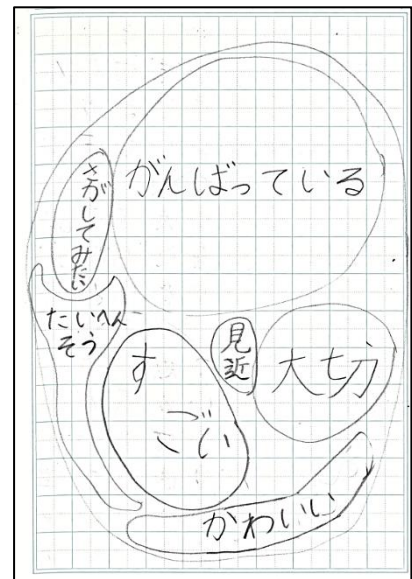
(文責：曾根朋之)

ウ 成果と課題

①プロジェクト実践（1）について

本実践の第一次、第二次では（a）「目的や説明内容に合わせた効果的な写真を判断することを通して、写真の見方を知ること」をねらいとした。読み手として選んだ写真絵本を分析することで、自分たちにとって効果的な写真や言葉に気付くことができた。効果的な写真の条件を子どもたちと作ることで理解しやすいものとなり、『ダンゴムシみつけたよ』の良い写真を考えるときには、その条件が共通の土台となり写真の見方への深まりがあった。しかし、その条件自体が考えを固定化してしまう懸念もあるため、条件については検討の余地がある。

第三次では、（b）「皆越ようせい作品で扱われている生き物の見方がどのように変わったのかを作者の言葉、写真の使い方、写真の撮り方の特徴に着目しながら読むこと」をねらいとした。本時の考えの共有の場面では、それぞれの生き物への見方を伝え合い、考えを広げることがをねらいとしたが、本時だけを見ると、考えが拡散してしまっただけという見方もできる。実践者の役割として、子どもの考えの根拠を「写真の撮り方」「写真の使い方」「文の工夫」など板書で位置付け、教科内容としての学びを明確にするつもりでいたが、不十分な点も多かったのは、教師の力量不足である。しかし、11時間目に行った活動の振り返りでは、右の資料のように自分の感じたことを図と言葉にすることで多様な感じ方を自覚化する姿も見られた。土壌生物の大切さや、必死さなどについて、本実践を通して感じている子どもも多くおり、そう感じる事ができた過程には、文章と写真の結び付けて読むこと、効果的な写真の見方をする事といった国語科として必要な資質能力を発揮した振り返りも見ることができた。総じて、「複数の写真絵本を様々な見方で読み比べることを通して、多くの写真絵本の魅力に気付くこと」というねらいは達成できたと言えるが、電子書籍の教材化、写真絵本の教材化には様々な課題や検討の余地があるため、今後の実践へと積み重ねていきたい。



読	い	こ
み	か	と
た	わ	あ
く	う	い
な	が	い
る	さ	の
か	れ	理
ら	て	ゆ
い	う	て
て	く	り
み	さ	後
ん	い	書
な	と	き
が	書	に

け	の	あ	ん	ま	ま
な	や	そ	ぶ	な	小
い	く	の	う	が	さ
か	に	生	が	読	い
ら	た	き	あ	み	も
。つ	も	る	た	の	大
ど	の	か	く	を	切
う	が	ら	な	と	と
ぶ	い	。る	。見	て	母
っ	な	よ	て	近	い
が	い	う	い	と	る
生	と	な	た	た	か
き	、	言	り	い	ら
て	人	葉	、	へ	。い
い	間	の	み	ん	ご